

第49回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会



会場	福岡市総合体育館	
日時	平成31年3月24日 (日) 10:30	
コート	Aコート	第2試合
カテゴリー	男子	準決勝
主審	原田 拓朗	
第1副審	岩尾 圭治	
第2副審	樋口 俊司	

TEAM A			TEAM B		
福岡第一	79			56	延岡学園
福岡1位					宮崎1位
○					●

21	1st	13
27	2nd	12
24	3rd	11
7	4th	20
OT		

【BOXスコア】

TEAM A		福岡第一高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
1	當山 修梧	0					
8	河村 勇輝	◎ 8	1	1	3		
13	神田 壮一郎	○ 6	1	1	1	1	
23	齋藤 友紀	2		1			
27	松本 宗志	1			1		
31	ハーバージャン ローレンス ジュニア	11	2	2	1	1	
37	仲田 泰利	0					
40	三宅 翔りーディローチ	1			1	1	
44	内藤 凌太	2		1		4	
46	小川 麻斗	○ 11	1	4		1	
54	内尾 聡理	○ 14		5	4	1	
59	山田 真史	3	1			1	
60	クベマジョセフ スティーブ	○ 18	1	7	1	1	
63	井上 僚人	0				1	
65	キエキエトピー アリ	2			2	3	
コーチ	井手口 孝						
合計		79	7	22	14	15	

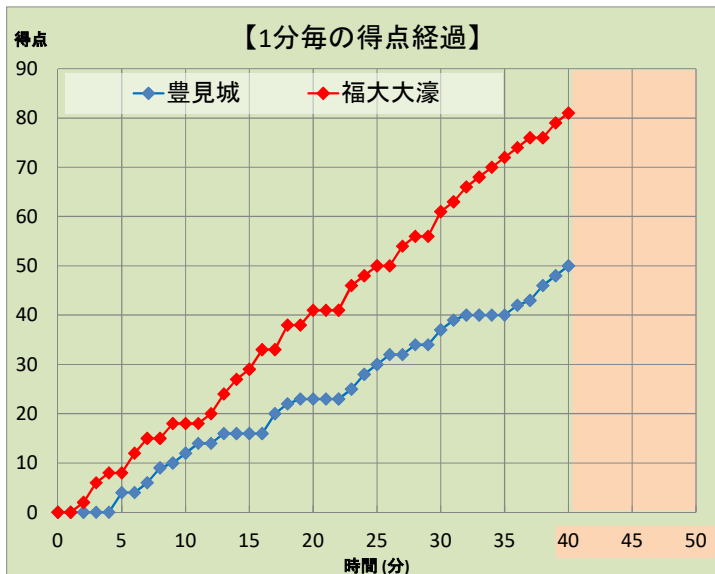
TEAM B		延岡学園高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	中小路 優	2		1		2	
5	ポーグ 健	10		3	4	2	
6	前田 陽向	2		1			
7	諸石 雅也	○ 11	1	3	2	2	
8	山本 裕樹	4	1		1	2	
9	市川 廉太郎	○ 2		1		2	
10	高橋 寛太	0					
11	森下 瞬真	◎ 8	1	2	1	1	
12	片伯部 樂年	2			2	1	
13	水野 虎太郎	0					
14	伊東 和希	0					
15	MUYA KABANGU FRANCIS	○ 10		4	2	2	
16	眞喜志 梨生	0					
17	田中 虎太郎	0					
18	木下 岳人	○ 5		2	1	3	
コーチ	楠元 龍水						
合計		56	3	17	13	17	

【戦評】

全九州大会準決勝、福岡県1位福岡第一対宮崎県1位延岡学園の対戦、福岡第一のスターティングメンバーは、#8、#13、#46、#54、#60、延岡学園のスターティングメンバーは、#7、#9、#11、#15、#18で試合開始。第1Q、福岡第一は厳しいディフェンスから相手のミス誘い、スピードのある速攻を繰り返して主導権を握る。対する延岡学園は#15のゴール下、#11の3ポイントで追いつく。第1Q後半、福岡第一#60のフリースローを含む連続得点でリードを広げ21-13で第1Q終了。第2Q、延岡学園は#11のドライブなどで果敢に攻めるが、福岡第一の好ディフェンスに阻まれ得点に結びつかない。福岡第一はそれを早い展開で着実に得点につなげる。第2Q後半、途中交代で出場した延岡学園#5がゴール下で奮闘し4得点。#11も速攻のランニングシュートを決め喰らいつく。しかし、福岡第一がハイピックからのオフense、速攻をきっちり決め47-25で前半終了。第3Q、まずは福岡第一が#60のゴール下で先制。延岡学園は福岡第一の激しいインサイドの攻撃をしのぎながら#15のシュート、#8の3ポイントで応戦。第3Q後半、延岡学園はオールコートのマンツーマンをしかけプレッシャーをかけるが、福岡第一は落ち着いたプレーを展開。#13、#31、#59が3ポイントを決め引き離しにかかる。第3Qは71-36と福岡第一が大きくリードして終了。第4Q開始直後、延岡学園は厳しいディフェンスから流れをつかみ、#4、#7、#15の3人で4連続得点。ディフェンスにも力が入り最後まで諦めない姿勢を見せる。対する福岡第一は鋭いドライブでファウルを誘い、フリースロー等で着実に得点を積み重ねていく。最後は79-54で試合終了。福岡第一が安定した試合運びで決勝進出を果たした。

【戦評記者】 増永 洋祐
福岡県バスケットボール協会

第49回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会



会場	福岡市総合体育館	
日時	平成31年3月24日 (日) 10:30	
コート	Bコート	第2試合
カテゴリー	男子	準決勝
主審	山口 勝真	
第1副審	金岩 貴之	
第2副審	野田 宏樹	

TEAM A			TEAM B		
豊見城	50		81	福大大濠	
沖縄1位				福岡2位	
●				○	

【BOXスコア】

TEAM A 豊見城高等学校						
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則
4	比嘉 颯人	0				
5	渡久地 政睦	○	11	4	3	2
6	伊良部 龍侍		0			
7	赤嶺 有奎	◎	9	1	3	3
8	喜納 秀雅		0			1
9	長濱 凌		6	2	2	3
10	桃原 奨		5	1	3	1
11	嘉敷 啓希	○	12	5	2	2
12	新垣 隆太		0			
13	元長 亮介	○	0			1
14	登川 莉玖士		0			
15	諸見田 敬介	○	7	1	2	2
16	伊敷 颯太郎		0			
17	赤嶺 敬将		0			
18	知念 拓己		0			
コーチ	嘉陽 宗紀					
合計		50	2	17	10	15

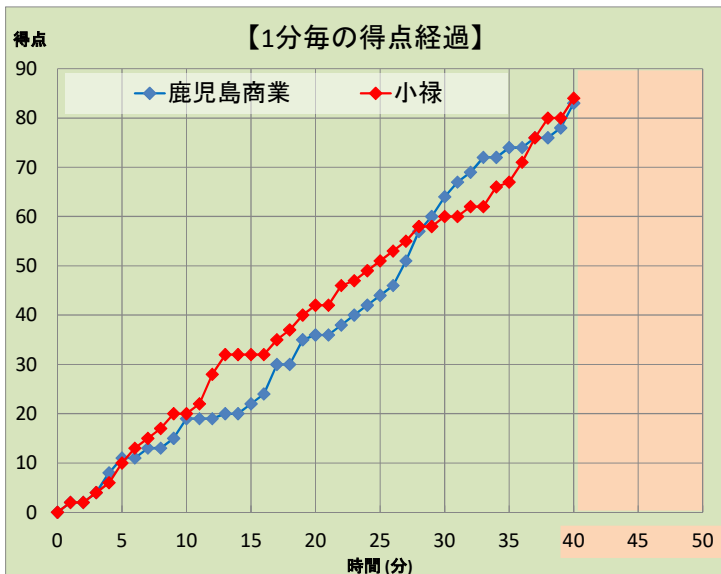
TEAM B 福大大濠高等学校						
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則
4	西田 公陽	◎	6	3		2
5	高木 寛大		8	4		2
6	田邊 太一	○	5	2	1	1
7	間山 柁	○	10	4	2	1
8	木林 優	○	7	2	1	3
9	西田 陽成		0			
10	平松 克樹		9	1	2	2
11	杉 涉夢		0			1
12	山際 爽吾		2	1		
13	原田 大和		3	1	1	1
14	横地 聖真	○	22	3	6	1
15	岩橋 史門		2	1		2
16	廣政 遼馬		4	2		1
17	大浦 禅次郎		3	1		
18	渡辺 康太		0			
コーチ	片峯 聡太					
合計		81	7	26	8	17

【戦評】

全九州大会準決勝、沖縄県1位豊見城対福岡県2位福大大濠との対戦、スターティングメンバーは豊見城#5、#7、#11、#13、#15、福大大濠#4、#6、#7、#8、#14で試合開始。第1Q、両チーム無得点の状態が続くなか、先に均衡を破ったのは福大大濠。#14のアシストから#7が3連続得点。豊見城は#5がドライブで積極的にアタックするも相手の高さに阻まれる。福大大濠#14がさらに得点を追加し、0-8となったところで豊見城がタイムアウト。その後は#15、#7の3ptsなどで大濠の高さに対抗していき、12-18の福大大濠6点リードで第1Qを終えた。第2Q、豊見城はスクリーンから活路を見出そうとするが相手の高さを打ち崩すことができない。その間も福大大濠は#14が味方の得点を演出しながら自らも次々にシュートを決める。残り時間5分となったところで豊見城タイムアウト、流れを止めようと試みるが、直後に大濠は#10のドライブに#4が絶妙なタイミングで合わせ、さらに勢いづく。豊見城もフリースローやアウトオブバウンズからのスクリーンプレイなどで得点するが、福大大濠がリードを広げ、23-41で前半が終了した。第3Q、豊見城が#7のドライブや#10のバスケットカウントワンスローなどで得点すれば、福大大濠は#14がこのゲーム早くも20点目となる3ptsを決めるなど見ごたえある展開に。豊見城がオールコート1-2-2で相手のミスを誘うが、福大大濠も素早いボール運びで即座に対応する。ゲームは大濠のペースで進み、37-61で第3Qを終了した。第4Qはお互いにマンツーマンでスタート。残り6分で福大大濠は#12、#16がコートへ。直後に#16がフックシュート、#12が鋭いドライブで得点する。対する豊見城も#7が相手長身選手2枚のブロックをかわしレイアップを決める。最後は主力を下げ、ベンチメンバーも出場した福大大濠が50-81で勝利した。福大大濠の高さに果敢に挑み続けた豊見城の健闘も称えたい。

【戦評記者】 飯田 啓介
福岡県バスケットボール協会

第49回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会



会場	福岡市総合体育館	
日時	平成31年3月24日 (日) 10:30	
コート	Cコート	第2試合
カテゴリー	男子	準決勝
主審	山口 憲昭	
第1副審	萩尾 繁治	
第2副審	西崎 拓哉	

TEAM A			TEAM B		
鹿児島商業	83		84	小祿	
鹿児島3位				沖縄3位	
		19 1st 20 17 2nd 22 28 3rd 18 19 4th 24 OT			
●				○	

【BOXスコア】

TEAM A 鹿児島商業高等学校						
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則
1	前田 聖也	0				
3	山本 来毅	15		5	5	4
11	赤崎 慧	0				
13	濱田 恋叶	0				
18	板敷 遼	10		5		4
19	巖 泰夏	0				
23	中元 聡師	8	2	1		4
24	中村 輝一	5		2	1	1
25	宮原 悠志	0				
32	益園 涼歌	0				
34	渡邊 嵩大	0				
36	深川 拓真	20	6	1		1
42	植益 顕	0				
45	中間 陸斗	19		9	1	4
51	村田 拓海	6		3		3
コーチ	伊藤 泰孝					
合計		83	8	26	7	21

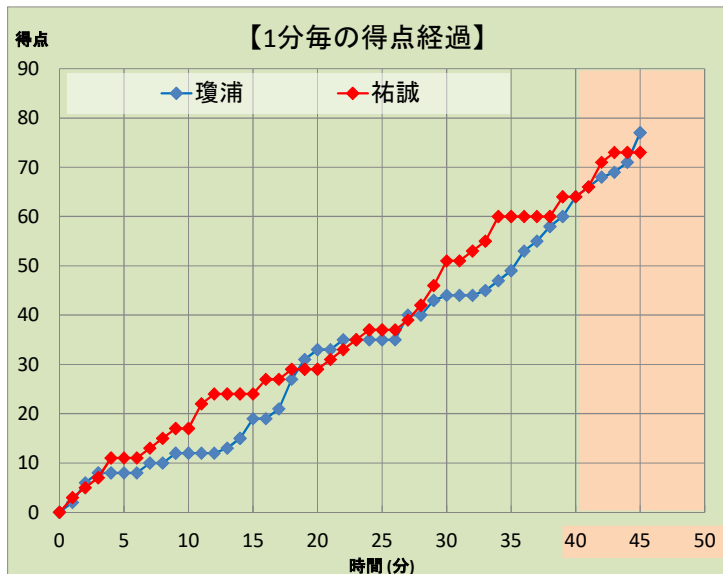
TEAM B 小祿高等学校						
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則
4	仲座 空良	6	2			1
5	山本 涉夢	29		13	3	4
6	大田 浩人	6		3		1
7	備瀬 力斗	23	2	6	5	3
8	平良 一洋	8		3	2	2
9	平敷 陸斗	0				
10	安里 柊	0				1
11	金城 孝俊	0				
12	又吉 本丸	12		4	4	1
13	當山 幸弥	0				
14	我喜屋 瑞	0				
15	池宮城 光貴	0				
16	花城 怜翼	0				
17	上原 滉生	0				
18	波平 航	0				
コーチ	源古 隆					
合計		84	4	29	14	13

【戦評】

全九州大会2回戦、鹿児島県3位鹿児島商業対沖縄県3位小祿との対戦、鹿児島商業のスターティングメンバーは、#18、#23、#36、#45、#51、小祿のスターティングメンバーは#5、#6、#7、#8、#12、で試合開始。第1Q両者マンツーマンで始まる。鹿児島商業はファストブレイクで得点、小祿はピックアンドロールから得点を決め、両者互角の戦いを見せる。小祿は第1Qの残り5分、1-2-2のオールコートプレスを仕掛ける。第1Qは20-19で小祿がリード。第2Qの立ち上がり、小祿は#7の1on1やスティールからの速攻で得点を重ねる。鹿児島商業のタイムアウト後、小祿が激しいディフェンスから速い展開に持ち込む。一方、鹿児島商業は堅いディフェンスから、#45のバスケットカウント、#36の3ptsで粘りを見せる。前半は42-36で小祿がリードして終了。第3Q、小祿は#7のドライブからの合わせや#12のゴール下でのショットで得点をしていく。追いつきたい鹿児島商業は果敢に攻めるもなかなか点差を埋めることができない。その後、鹿児島商業は#24のゴール下、#3のバスケットカウント、#23の3ptsと連続して得点が決まり第3Q終了間近、ついに逆転に成功する。第3Qは64-60で鹿児島商業がリード。第4Q序盤、鹿児島商業は#36の連続3ptsでリードを広げる。対する小祿は#8の鋭いドライブや#5のゴール下でのアグレッシブなプレーで食い下がる。残り4分、小祿#5のインサイドプレーと#7の速攻等で1点差まで追いつく。鹿児島商業はタイムアウトを請求。その後、一進一退の攻防が続く。残り1分で小祿のドライブが決まり、小祿がリードを奪う。鹿児島商業は前から当たるも小祿は冷静に試合を運ぶ。鹿児島商業は最後3ptsを決めるも試合終了。要所でシュートを決めた小祿が接戦を物にした。

【戦評記者】 棚町 俊樹
福岡県バスケットボール協会

第49回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会



会場	福岡市総合体育館	
日時	平成31年3月24日 (日) 10:30	
コート	Dコート	第2試合
カテゴリー	男子	準決勝
主審	大久保 好純	
第1副審	皆川 太郎	
第2副審	佐多 裕樹	

TEAM A			TEAM B		
瓊浦	77		73	祐誠	
長崎3位				福岡3位	
○				●	

12	1st	17
21	2nd	12
11	3rd	22
20	4th	13
13	OT	9

【BOXスコア】

TEAM A		瓊浦高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	松村 凱士貴	0					
5	西野 浩史	◎ 11		5	1	3	
6	片岡 耕介	○ 5		2	1	2	
7	寺崎 廉	4		2		1	
8	前川 浩人	0					
9	宇野 秀太	0					
10	岩崎 海凧人	○ 4		2		3	
11	松村 生	0					
12	山田 薫	0					
13	寺島 憧	0					
14	高比良 舜	0					
15	ンゲンザ アーノルド	○ 14		4	6	3	
16	江頭 永遠	0					
17	喜多 伊総	○ 32	1	5	19	1	
18	中川 英士	7		2	3	1	
コーチ	埴生 浩二						
合計		77	1	22	30	14	

TEAM B		祐誠高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	時川 司	◎ 24	2	7	4	2	
5	永富 真佑	○ 13		4	5	5	
6	松尾 若将	0				4	
7	松尾 海飛	○ 2		1		4	
8	阿部 孝大	0					
9	隈本 尚輝	0					
10	東野 泰士	0					
11	立木 広大	2		1		2	
12	福嶋 章悟	14	2	4		2	
13	長田 将	0					
14	吉岡 勇哉	10		4	2	2	
15	平井 駿輔	○ 6		2	2	5	
16	西川 凌央	0					
17	竹嶋 健人	○ 2		1		4	
18	東野 友哉	0					
コーチ	三笠 富洋						
合計		73	4	24	13	30	

【戦評】

Bパート準決勝、瓊浦対祐誠の対戦。第1Q祐誠は序盤からミドルショットを高確率で決めていき、ゲームの主導権を握る。対する瓊浦は#15を起点にゲームを展開しようとするが、祐誠にゴール下を絞られミスが続く。残り2分で祐誠#4が速攻からレイアップを決め17-10、瓊浦がタイムアウト。瓊浦はディフェンス2番のオープンスタンスをよりボールマンに集中させ、ペイントへの侵入を阻止。第1Q17-12で祐誠5点リード。第2Q瓊浦はハイピックからギャップを狙おうとするが、祐誠の強固なディフェンスに阻まれターンオーバーが続き、祐誠は序盤からレイアップで得点を重ねていき、開始2分で差を2ケタにする。ここで瓊浦は2-3ゾーンにし、ディフェンスのリズムを変えようと試みる。祐誠はゾーンディフェンスに攻めあぐね、残り2分30秒で27-27の同点に追いつかれ、祐誠タイムアウト。しかし瓊浦の勢いは止まらず、33-29で瓊浦が4点リードで前半終了。第3Q瓊浦はゾーンを継続、祐誠はゾーンにアジャストし始め開始2分で35-35の同点に追いつく。第3Q終盤まで一進一退の攻防が続いたが、祐誠の#4のスリーポイントを口火に流れが祐誠に。51-44で祐誠が7点リードで第3Q終了。第4Qは開始2分まで点数に動きがなかったが、祐誠の2本連続で速攻が決まり、瓊浦がタイムアウト。瓊浦は#5、#15で得点を重ねていき、さらに祐誠のファールトラブルにより、流れが瓊浦に傾く。瓊浦の選手は冷静かつアグレッシブにディフェンスをし、スティールから得点を重ねる。祐誠はファールがかさみ、残り22秒祐誠2点リードで瓊浦ボール。#5のシュートからのリバウンドボールを#17が獲得し、ファールをもらいフリースロー。落ち着いて2本とも沈め、延長戦へ突入。お互いに譲らない展開となったが、最後は瓊浦#5のレイアップが決まり、77-73で瓊浦の勝利。両チームともお互いの戦術に対応し、盛り上がりのあるゲームとなった。

【戦評記者】 貞包 謙
福岡県バスケットボール協会